

【小学校・中学校・義務教育学校用】
令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀市立北山東部小学校
-----	-------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・すべての項目で十分達成、おおむね達成となった。業務改善委員会の開催や職員のタイムマネジメントを向上させることで、働き方改革や業務改善の推進を図ることができ、教育の質の向上につながった。・次年度は、以下4点の改善・充実に取り組む。 ①「学習課題づくり」に重点を置きながら、「ふりかえりの視点」を生かして、教師の授業改善と児童の学力向上を目指す。「進んで学習」②一人一人に出番・役割を与えることで、何事にも挑戦する態度を養う。「心と体を鍛えて何事にもチャレンジ」 ③全ての教育活動を通して人権教育の充実させ、児童の他者への思いやりの心を育成する。「自分も友達も大切に」④地域、保護者、学校職員で、取組の継続・改善の議論を重ね、コロナ禍後の山村留学の新しい形を定着させていく。	
------------------	---	--

2 学校教育目標	郷土を愛し、心豊かで心身共にたくましく、生き生きと学ぶ東部っ子の育成
----------	------------------------------------

3 本年度の重点目標	①めあてをもって主体的に学習し、自分の考えを進んで発信する児童の育成 ②健やかな体と心を持ち、前向きに何事にも挑戦する児童の育成 ③自他や郷土の良さを知り大切にするとともに、相手を思いやり、共に生きようとする児童の育成
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 (-B16:F191)共通評価項目				中間評価		5 最終評価				主な担当者
重点取組			中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○主体的な学び手を育成する授業の実践 (主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導方法の改善充実)	○「自分のめあてをもって学習に取り組む、振り返りができている。」と回答した児童85%(12名)以上	・振り返りを次時の個々のめあてに生かし、共有することで「個別最適な学び」と「協働的な学び」を目指す。 ・指導と評価の一体化の実現。 ・授業実践を元にした研修の充実。	A	・児童は国語科を中心に自分でめあてを立てており、そのことによって、主体的な学びにつながっている。 ・指導と評価の一体化の実現に向けて、今後も全教科で継続する。 ・それぞれの実践を持ち寄り、実践ベースで研修ができており、授業改善につながっている。	A	・一人一人が立てためあてを発表する場を設けたことによって、めあての質が向上している。学習課題だけでなく、学習計画を他教科でも実施し、ゴールやすべきことを確認しながら、主体的に学習することができている。学習課題を意識することができているので、他教科でも汎用的に学んだことをいかしている。 ・公開研を経て、授業の成果や課題が明確になった。	A	・小規模校で人数が少ないので、ある程度行き届くのは当たり前のことと言えるが、それは先生方の指導力に十分な力があるからだと思う。 ・一人一人への対面での指導が、よい結果になっていると思う。	研究主任 研究副主任
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「いつでもどこでもだれとでも『みんなが』を考えた行動ができた」と回答した児童85%(12名)以上	・ソーシャルスキルトレーニングの充実を図る。(日常の学習・生活場面) ・月1回の人権教室の充実を図る。	A	・児童14名中13名(93%)が肯定的な回答をしている。保護者・教職員も100%が肯定的に捉えている。今後も現在の取り組みを継続し、児童の様子を見ながら声掛け・指導していく。	A	・100%の児童が肯定的な回答をしている。 ・SCの協力を得ながら、ソーシャルスキルや人権に対する意識の向上を図った。来年度も継続して取り組んでいきたい。	A	・少人数のためよく目が行き届き、小さな問題にも対応できている。これ続けて欲しい。 ・地域の方への挨拶がきちんとできている。	人権学習担当
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「こまったことやいやなことはすぐに相談できている」と回答した児童85%(12名)以上	・児童が何でも話せる学級経営の充実 ・SOSの出し方教育の推進 ・SCを中心とした全校相談体制の充実。 ・いじめ防止基本方針を周知徹底し、迅速かつ組織的対応の徹底を図る。	A	・児童14名中、12名(86%)が「相談できている」と回答。2名が「あまり当てはまらない」と回答しているので、こちらのアンケート等を活用して、子どもの気持ちに寄り添った取り組みを継続していく。	A	・100%の児童が「こまったことやいやなことはすぐに相談できている」と回答している。 ・少人数のため、日常的な観察やこころのアンケートで早期発見・早期対応ができていた。これからもより一層、子どもたちが相談しやすい体制づくりに努めたい。	A	・少人数であるため、子どもに変化があれば、小さなところまで対応ができる。 ・子どもたちが素直でとてもよいと思います。 ・子どもたちがすぐに誰かに相談できているのは小規模校のよいところだと思います。	教育相談担当
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%(12名)以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%(12名)以上	・学校行事や学級経営の中で、一人一人に出番・役割を与えて承認し、自己肯定感を高める。 ・良いことをしたり、がんばったりした児童にシールを渡し、貯まったら表彰する「スターシール」の活用 ・地域行事と連携した「ふるさとを誇りに思う教育」の推進 ・授業や学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	A	・職員が「ほめて認める」取組を継続して行うことで、児童全員が「先生はあなたのよいところを見つけてくれている。」と感じている。(100%)それが励みとなりさらなる行動へとつながっている。今後も自己肯定感を高める活動を継続し取り組んでいきたい。	A	・「先生はよいところを認めてくれている。」と回答した児童は100%であった。少人数であるため、一人一人に与えられる出番や役割が多く、子どもたちの達成感につながっている。 ・小学生にとっては夢や目標について考えることは難しいところもあり、肯定的な回答は64%であった。夢や目標を見つけるためのきっかけを与えるような取組をしていきたい。	A	・よいところを伸ばす指導を続けて欲しい。 ・特に高学年の子どもたちには夢や目標を持って欲しい。 ・少人数のため、一人一人を見ることができるのでたくさん声をかけることができる。そのような環境が子どもたちの自己肯定感を高められていると思う。	特別活動担当
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%(9名)以上	・県保健体育課実施のスポーツチャレンジの種目の中から全校で「8の字」「ドッジボールラリー」の2種目にエントリーし、目標を設定した長期的プランで取り組む。 ・昼休みに体育館を開放する等、運動をしやすい環境を整える。	A	・授業以外での運動時間が420分を越えている児童が12名以上である。登下校や全校創造に加え、スポーツチャレンジに取り組むことで学校のカリキュラムでも進んで体を動かすことを推進している。 ・昼休みに進んで友達を誘い、運動をする児童が多い。	A	・運動時間が420分を越えている児童が13名以上である。異年齢・異学年で運動する習慣があり、低学年にとっては技能モデルが近くにおり、高学年にとっては教える対象がいることで、運動の仕方がよりよくなっている。遊びと体育がつながっている。 ・スポーツチャレンジでは、小規模校分野での入賞や8の字とびで銀賞となり、児童の意欲につながっている。	A	・剣道は熱心に行われているが朝早くから行うのは子どもに負担をかけているのではないだろうか。改善されるべきものではないかと考える。 ・この取組を続けてください。 ・スポーツチャレンジで表彰を受けたのは子どもたちの意欲につながるもので、来年も続けて取り組んで欲しい。	体育主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・事務処理の時間の捻出とその実施 ・「業務改善・働き方改革」のための議論の場を年間2回設定する。	A	・職員10名中9名が時間外在校時間が月45時間以内であり、4月～9月の時間外在校時間は平均すると約28時間であった。水曜日以外の放課後はできるだけ話し合いを入れてに教材研究等の時間に充てることができた。7月に業務改善委員会でその内容を吟味し、改善につなげていきたい。	A	・10月～1月は全てのもで、時間外在校等時間の上限(45時間以内)を守ることができた。 ※職員10名中9名また、職員全体の平均時間外勤務は24.4時間であった。 ・研究発表会の前は準備等で退勤時間が遅くなりがちだったがそれ以降は早目に退勤できている。 ・来年度は校時限の工夫などを通して教材研究や事務処理の時間を確保していきたい。	A	・山村留学やへき地という特殊事情がありながら、時間をオーバーすることなく業務に努力されていることに敬意を表したい。苦労しないようにがんばって下さい。 ・大変ですが、続けてください。 ・業務改善が進んでおり、時間外勤務時間が昨年度よりも減っているのは大きな成果であると思う。	教頭 県費事務職員
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者
○特色ある学校作りの推進	○保護者・地域と協働した持続可能な取組としての山村留学の改善・充実	○「やまばと山村留学は、持続可能な取組として改善が進んでいる」と回答した保護者90%以上。	・実行委員会(地域、保護者、学校)で、山村留学のあり方についての議論を重ね、取組内容を整理して持続可能な取組となるようにしていく。	A	・昨年度から短期・長期ともに山村留学を再開したが、全てを元通りにするのではなく、必要なことと削減できることを整理して実施している。また、山村留学行事は内容・時間ともに削減し、全員が取り組みやすいように改善している。その結果、「やまばと山村留学は、持続可能な取組として改善が進んでいる。」と回答した保護者は100%だった。今後も持続可能な取組として改善をしていく。	A	・今年度から全ての山村留学行事を制限無しにした。コロナ禍の3年間で必要なことと削減できることが整理できたので、コロナ前に比べると、随分取組内容の整理ができた。その結果、保護者全員が「やまばと山村留学は、持続可能な取組として改善が進んでいる。」と回答していた。(100%) 来年度は山村留学の今後の在り方について議論を深めていきたい。	A	・山村留学が適当であるものなのか、はつきりとした答えを持たないが、もっと議論をするべきであると考え。 ・本校の山村留学はの特色のある取組なので、今後も続けて欲しい。保護者や地域連携等、何でも相談してもらえればと思う。 ・山村留学は受入家庭を作る等保護者の意識を高めることを期待します。	教頭 教務

5 総合評価・ 次年度への展望	・職員や児童が学校教育目標の「郷土を愛し、心豊かに心身共にたくましく、生き生きと学ぶ東部っ子の育成」を常に意識して教育活動に取り組むことができていたので、すべての項目で十分達成となった。 ・学習課題づくりに重点をおいた教師の授業改善と児童の学力向上は一定の成果を上げることができた。来年度はへき地・少人数教育における学習指導法や教育課程の改善を図り、学力向上に取り組む。 ・極少数学校の特性を活かして、学校行事や学級経営の中で一人一人に出演・役割を与えて承認し、自己肯定感を高める事ができた。児童が夢や目標を持って様々な事に挑戦できるよう支援をしていきたい。 ・学校行事の内容見直し等をしたことで、職員一人あたりの時間外勤務時間が昨年度より少なくなった。来年度は校時限の見直し等をしてさらなる働き方改革を進めていく。 ・今年度は3年降りに山村留学生を迎えることができ、学校や保護者、地域が一体となった取組をすることができた。里親不足等、課題も多いので、今後も地域、保護者、学校職員で取組の継続・改善の議論を重ねる。
----------------------------	--